

ミッションの遂行状況の評価（令和4年度）			
<p>団体における評価</p>	<p>コロナ禍からの回復傾向に伴い、社会経済活動の正常化が進む中、北九州空港においては、国内線旅客数は約837千人と前年度比174%であったが、コロナ禍前の平成30年度に比べると約6割の水準であった。国際線は昨年度に引続き年間を通じて運休となったが、インバウンド向けのチャーターが約3年ぶりに実施され、年間国際線旅客数は約2千人となった。</p> <p>国内航空貨物は、年間取扱量が約2千3百トン（前年度比104.5%）であった。国際航空貨物は令和5年2月に定期路線が新規開設し、年間取扱量はコロナ禍による世界的な航空貨物需要が落ち着いたこと等を受け、約1万5千トン（前年度比77.1%）であった。</p> <p>年間のターミナルビル来館者は約132万人、駐車場利用台数は約21万台と、どちらも前年度より増加した。こうしたコロナ禍からの回復途上の状況において、行政や関係団体と連携し、集客対策や旅客サービス面の支援に努めた。</p>	<p>市の評価</p>	<p>旅客については、就航路線（国内・国際）の目標は未達成となった。一方で空港入館者数数は昨年度に引き続き増加し、目標を大きく上回った。</p> <p>コロナ前の数値にはまだ至らないものの、順調な回復傾向にある。</p> <p>貨物については、貨物取扱量は世界的な貨物市況の停滞により、目標を上回ることはできなかった。引き続き物流拠点化空港の実施に向けて、第2国際貨物上屋の整備、R6.4就航予定の国内貨物定期便の受け入れなど、連携した取組を進めている。</p>
<p>今後の課題及び見直し内容（案）</p>	<p>【航空旅客】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内線の旅客需要がコロナ禍から徐々に回復しつつあることから、就航航空会社や行政及び関係団体と連携をとり、PRやキャンペーンを実施する等の集客対策を進める。 ・国際線の定期路線が令和5年5月より再開し、路線維持のため、就航航空会社や行政及び関係団体と連携し、集客対策や旅客サービス面の支援を行っていく。 ・国内・国際線のビジネス需要についてWEB会議等の普及によるコロナ禍以前までの回復が見込めない可能性があることから、今後の動向を注視する。 <p>【航空貨物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際航空貨物定期路線の安定的な運航と国際貨物チャーター便の運航を支援するため、老朽化した大型地上支援機材の更新を行う。 ・今後拡大が見込まれる国内及び国際貨物に対応できるような貨物施設の増強について検討する。 ・事業採択された滑走路3千メートルへの延伸について、地元自治体と連携し、早期供用に向けて国への要望活動を行う。 <p>【各種イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルビル来館者に北九州空港に親しんでいただくとともに、旅客増につながるイベントを行う。 <p>【入居事業者への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き必要な支援・対策を実施する。 <p>【駐車場事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空港ビルと駐車場の一体運営により利用者の利便性向上及び経営効率化を図り、空港全体の利用者増と会社の収支向上に繋げる。 <p>【経営環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍からの回復途上であるため、更なる経費削減に努めるとともに、広告等収益増に繋がる取組を更に強化する。 	<p>団体への改善指導内容（案）</p>	<p>旅客については、コロナ禍の終息により、順調な回復傾向が見られる。引き続き、就航路線の維持・拡大及び集客を連携して取り組むこととする。</p> <p>貨物については、機能強化を活かし、引き続き貨物取扱量の更なる増加に取り組むとともに、貨物施設の効率的な運営に向けた体制・手法の整備に取り組むこととする。</p>

その他～「行財政改革大綱における見直し内容」の取組み状況	
見直しの分類	—
<p>昨年度に引き続き、路線の維持・利用者数の増加に向けた取組みを進めた。</p>	

ミッションに基づく具体的取組み（令和4年度）									
1	目的（目指す状態）				活動計画（どうやって目的を達成するか）				
	就航路線の維持・拡大や新規路線の誘致に取り組み、利便性の高い空の玄関口としての機能向上を目指す。				利用者ニーズに適した空港施設・機能、サービスの提供を通じて、新規路線の就航につながるチャーター便を誘致する。				
	成果指標	R2年度実績	R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	活動指標	R2年度実績	R3年度実績	R4年度目標
就航路線（国内）	2路線	2路線	2路線	1路線	旅客チャーター便数（国内）	8便	15便	16便	14便
就航路線（国際）	0路線	0路線	3路線	0路線	旅客チャーター便数（国際）	0便	0便	120便	44便
2	目的（目指す状態）				活動計画（どうやって目的を達成するか）				
	物流ニーズに対応した施設・機能の高度化を図ることで、北部九州地域におけるものづくり産業の発展を支える航空貨物の物流拠点を目指す。				航空貨物の取扱いが円滑に行えるよう、貨物上屋や貨物取扱機材の整備・充実を通じて、新規路線の就航につながる貨物チャーター便を誘致する。				
	成果指標	R2年度実績	R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	活動指標	R2年度実績	R3年度実績	R4年度目標
貨物取扱量	15,384トン	21,819トン	30,000トン	17,432トン	貨物チャーター便数	22便	31便	28便	27便
3	目的（目指す状態）				活動計画（どうやって目的を達成するか）				
	公共性の高い空港ターミナルビル等の施設を安全かつ快適な空間として提供するとともに、新たなにぎわいを創出することで、空港の利用促進を目指す。				空港施設内において、イベントや展示会を開催するなど、空港の利活用を推進し、新たなにぎわいを創出する。				
	成果指標	R2年度実績	R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	活動指標	R2年度実績	R3年度実績	R4年度目標
空港入館者数	59万人	85万人	80万人	128万人	イベント・展示会等の開催	12回	18回	19回	25回